

平成 29 年 10 月 25 日

報道機関 各位

国立大学法人 東北大学産学連携機構

東北大学発ベンチャー起業支援プログラムの採択決定 ～「育成」タイプにおいてヘルスケア関連事業化案件など新たに 5 件を採択～

国立大学法人東北大学（所在地：宮城県仙台市、総長：里見進）では、平成 24 年度補正予算で措置された官民イノベーションプログラムによる大学への出資事業を原資として、研究成果を活用したベンチャー企業創出への支援に力を入れております。

具体的には事業化意志を持つ研究者を対象に社会ニーズに対応した製品のプロトタイプづくりやニーズ調査などによる事業性検証を通じて、社会的インパクトのある研究成果の事業化・実用化を支援するビジネス・インキュベーション・プログラム（BIP）（参考資料 1）を推進しています。この度ヘルスケア関連の事業化案件など新たに「育成」タイプ 5 件を採択しました（別紙）。

本プログラムには、企業との共同研究・企業による負担を前提とする「重点」タイプと、大学単独の負担で、新技術についての事業化検証から、実用段階にある技術についての起業準備までの幅広い段階に応じた支援が可能な「育成」タイプがあります。「育成」タイプは研究者の事業化意欲の積極的な発掘と支援拡大を視野に設定されたものです。

本プログラムでは平成 25 年 7 月開始以降、研究者からの申請に基づく事業化案件について現在までに「重点」、「育成」両タイプ合わせて 15 件を採択し、終了した 9 件のうち 4 件がジョイントベンチャーやベンチャー会社設立に至っております。

平成 29 年度は、第 1 回学内公募を 6 月 23 日に始め、書類選考、審査を経て、「育成」5 件が採択されたもので、以後、健康でかつ力ある社会への発展に貢献できる技術などプロトタイプの製作やビジネスケースの創造を目指してそれぞれ 1 年間の活動を進めてまいります。

(別紙)

平成 29 年度第 1 回東北大学ビジネス・インキュベーション・プログラム (BIP)
公募による採択案件 (事業期間: 平成 29 年 10 月 1 日～平成 30 年 9 月 30 日)

タイプ・所属部局・実施代表者	BIP 実施内容
育成 医工学研究科 原 陽介 リサーチフェロー	嚥下障害患者に対する誤嚥のリアルタイム検知・超音波センサーシステムの開発
育成 医学系研究科 阿部 俊明 教授	眼科疾患等に対する徐放ナノシートによる局所・低侵襲投薬技術の開発と事業性の検証
育成 流体科学研究所 太田 信 教授	血管治療の高度化のための血管・臓器モデルのコンパクト化と事業性の検証
育成 歯学研究科 齋藤 正寛 教授	骨芽細胞製剤の 3 次元培養技術による再生医療事業立ち上げのための非臨床試験の実施
育成 医工学研究科 芳賀 洋一 教授	超音波センサーによる血行動態計測デバイスの開発と事業性の検証

<お問い合わせ先>

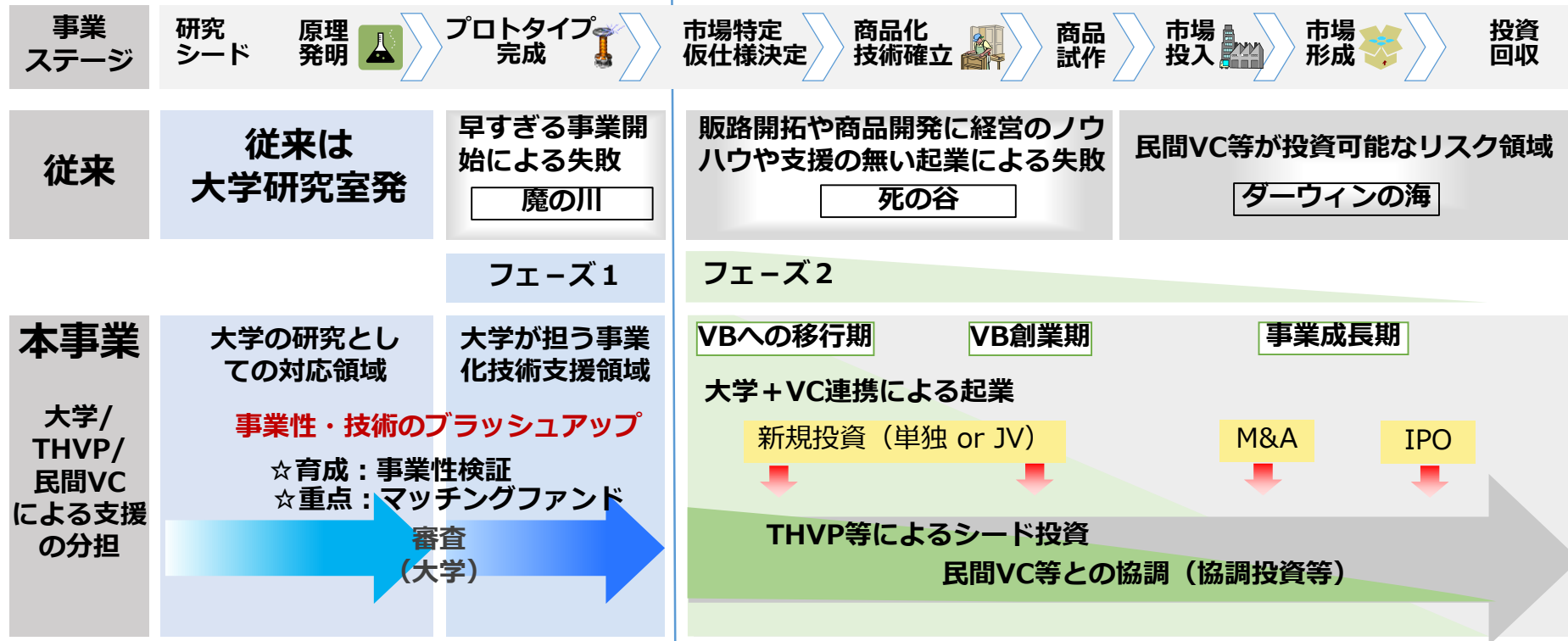
国立大学法人東北大学 産学連携機構 事業イノベーションセンター
三瓶 綾子 (サンペイ アヤコ)、元山 義章 (モトヤマ ヨシアキ)、
加藤 毅 (カトウ タケシ)、米田 達也 (ヨネダ タツヤ)

Tel : 022-217-6597

E-mail : info.innovation@ml.tohoku.ac.jp

東北大学BIP(ビジネス・イノベーション・プログラム)の概要

東北大学による直接の事業化支援(フェーズ1)と、東北大学ベンチャーパートナーズ(株)<THVP>・民間VCを通じた投資(フェーズ2)によりベンチャー企業(VB)を創出し、本学の研究成果を活用した事業化・実用化を推進



BIPフェーズ1 支援内容

★「**育成**」(幅広い段階に応じた事業化支援):①事業構想・原理試作・サンプルを用いた顧客ニーズ調査・マーケティング、②プロトタイプ・顧客開拓活動成果に基づいた事業計画策定、事業会社設立の準備等に向けた支援

⇒大学単独で上限500万円の支援

★「**重点**」(企業との共同研究による事業化支援):プロトタイプによる本格的な事業化検証(顧客ニーズの検証、競争優位性の証明)を行う研究開発、及びそれに基づく事業化準備(高付加価値ビジネス開発、事業化推進体制確立)向けの支援

⇒大学支援3,000～6,000万円 + パートナー企業が共同研究費全体の3分の1(現物負担も可)以上を負担

⇒支援終了後、パートナー企業とのJVによる共同事業化企図

★支援期間:原則1年間

BIPフェーズ1 位置付け

事業化への準備が様々な段階で実施されるよう、事業化支援メニュー(育成、重点)を用意

